令和七年度　一次入学試験問題　国語

受験番号

氏名

※答えは、すべて解答用紙にマークしなさい。

一　次のア～オの文の――部に相当する漢字を含むものを、次の各群の①～④のうちからそれぞれ一つずつ選び、マークしなさい。

ア　患者をカクリする。【解答番号1】
①　エンカクで操作する。　②　魚のランカク問題。　③　この店の料理はカクベツだ。　④　全員でカクニンする。

イ　不純物をジョキョする。【解答番号2】
①　ジョレツが決まっている。　②　ジョジョに悪化する。　③　ジョセイ金をもらう。　④　障害をハイジョする。

ウ　土砂がチクセキされる。【解答番号3】
①　ケンチクを学ぶ。　②　お年玉をチョチクする。　③　カチクを放牧する。　④　チクリンに迷い込む。

エ　体育館のキコウ式を実施する。【解答番号4】
①　キカイが壊れる。　②　タイソウギを忘れる。　③　ノートにキロクする。　④　キショウ時間を守る。

オ　保険料をオサめる。【解答番号5】
①　成果をオサめる。　②　国家をオサめる。　③　シュウリに時間がかかる。　④　明日にはノウヒンされる。

二　次の例文の――部を漢字で書き表すとき、その漢字と組み合わせて二字熟語とならないものを次の①～⑧の中から二つ選び、マークしなさい。【解答番号6】【解答番号7】

例　他に例のないトクイな事件。　①　徴　②　別　③　独　④　心　⑤　許　⑥　定　⑦　島　⑧　待

三　次のア～イの言葉の使い方として最も適切なものを①～④の中から選び、マークしなさい。

ア　舌を巻く。【解答番号8】
①　初めての面接で緊張して舌を巻いた。
②　舌を巻いてじっくり考える。
③　舌を巻いてしまうくらい体調が悪い。
④　職人の高度な技術に舌を巻いた。

イ　目を三角にする。【解答番号9】
①　目を三角にして悲しむ。
②　あまりの愉快さに目を三角にする。
③　目を三角にして叱(しか)る。
④　試験に合格して目を三角にする。

（次ページへ続く）

四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

アメリカに来て、いろいろと日本とは異なる状況に接するので、それを一種の「鏡」として、日本のことについて新たに考えさせられることが多い。今回は特に親子関係の在り方について考えさせられたことを述べてみたい。そんなに統計的なことを調べたりした上のことではなく、あくまで私の個人的体験を基にしてのことなので、その点を配慮しながら読んでいただきたい。

日本とアメリカと、どちらの親子関係が密接かなどということは簡単には言えないようだ。プリンストン大学に居るのだが、学生と話をしていると、休暇には「家族に久しぶりに会えるのでうれしい」とか、「休暇中の楽しみは家族と旅行をすること」とか言うのを聞くと、a日本の学生とは違うなと思う。日本でこんなことを言うと、「親から自立していない」と思われるのではなかろうか。むしろ、「親と旅行などまっぴら御免」という学生の方が多いのではなかろうか。

ここからすぐに、アメリカの方が日本より親子関係が密接などと言えないのはもちろんだ。たとえば、最近、日本にも生じてきたが、親による子どもの虐待の数などは、圧倒的にアメリカの方が多いし、ホームレスの子どもなどもアメリカの方が多い。

どちらが密接などというよりは、やはり質的な差に注目した方がいいと私は思っている。日本ではまだまだ親子の一体感のような感情に重きをおいているのに対して、アメリカは個対個の人間関係を親子関係の場合も重要と考えている。したがって、子どもを個人として育てることに早くから心を遣ってしつけをする。このようなしつけの厳しさを、日本人で、知らない人が多い。

日本の学生は「親など関係ない」と思って生きているのが自立かもしれないが、こちらに来て日本の「情けない学生」のことをいろいろ聞かされて残念に思っている。プリンストンではさすがにあまりそんな話を聞かないが、アメリカの人たちに言わせると、日本の学生のしつけはどうなっているのかということになる。

学生が親から余計なお金をもらいすぎて、ぜいたくするのが多い。こちらでは、家に財産があっても、子どもの遊びのために、それほどホイホイとお金を使わない。ところが、日本人は衣服や車や、その他ぜいたくなことに親が子どものためにどんどんお金を使うのが理解できない、というのである。

ところでアメリカの親子は個人的関係が強いので、養子をもらう人があんがい多いので驚かされる。日本人のように血のつながりを基にした何とも言えぬ一体感を、ほとんど感じないと言っていいほどなので、たとえ自分の子どもがいても、その上に養子をもらってもうまくいっている。

こんな例に接すると、アメリカ人の親子関係は素晴らしいと感心してしまう。

しかし、何でも行きすぎというのはあるもので、「うちは男一人だから、女の子も一人あるといいだろう」という調子で、女の子を一人、アジアの国で捨てられた子を養子にもらう。ところが、しばらくして「こんな子どもは仕方がない」、「育てられない」と養護施設に返してしまう、などということもある。

あんまり安易に養子を考えるので、その不幸な子が東洋人的な甘えを見せても気づかず、「しつけに従わない悪い子」ということになり、果ては「感情を外に出せない子」などということになる。

bこのような例に接すると、人ごとながら腹が立ってくる。ところが、このような子が施設でももてあまされ、私たちの仲間の箱庭療法の治療者のところに来て、実父母からも養父母からも見放されながら、自分自身の力で立ち直っていくーと言っても、もちろん容易なことではないがーのを見ていると、その子の素晴らしさに感心しつつ、「親はなくとも子は育つ」と思わせられたりする。

もっとも、この際、深い意味で親代わりとなった治療者と巡り合ったから、このような回復が可能だったわけで、さもなければ、言いしれぬ不幸な生活を、この子は体験しなくてはならなかったことだろう。

このような事例の報告を聞きながら、子どもは何も知らずに生まれてくるのだから、大事に育ててやりたいものだと思う。そして、その「大事に育てる」方法に、日本流とアメリカ流のバランスをよく考えねばならぬ時代なのだと思わされる。

自分の子どもの幸福を願う人は多い。子どもの幸福のためとあらば、自分の幸福は犠牲にしてもいい、とさえ思っている人は日本に多いと思われる。またそのようなことを実行した「美談」もたくさんある。子どもの幸福を見定めるまでは「死ぬに死ねない」などと言われる人もある。

子どもの幸福を願う親の気持ちや、その努力には頭の下がる思いがするが、どうも見当違いではないか、と言わざるを得ないときがある。例えばこんなことがあった。

c学校に行かない中学生の子どもを持った父親が、「今の子どもはぜいたくだ」と嘆く。自分は家が貧乏だったので、小学校卒業後は勉強させてもらえなかった。そこで働きながら「苦学」を重ね、とうとう今日のようになった。今では小さいながらも会社を経営するまでになったが、それまでに学歴のためにどれほど苦労したかわからない。そこで、子どもにはそんな苦労をさせたくないと思い、塾にも通わせ、家庭教師をつけて、中学校も「よい」私立校に行けるようにしてやった。

親がここまで何もかもしてやっているのに、学校に行かず怠けているのは「ぜいたく」だ、というわけである。

この父親はもちろん子どもの幸福を願い、自分が子どもだったころのような不幸を味わわせないようにと配慮してきた。しかし、子ども自身の立場になってみると、お金がなくて「苦労」しているのと、自分の意思でもないのに塾に行かされ、家庭教師つきで勉強させられるのと、どちらが「幸福」か、にわかに断定できないのではなかろうか。「自分の意思」を生かされているかどうかに注目するならば、後者の方が不幸といえるのではなかろうか。

「子どもの幸福」を願っている、という親は、ほんとうに子どもの立場から見ての幸福を願っているか、親が「子どもの幸福」と考えることを勝手につくりだし、子どもが「幸福」だと信じることで、自らが安心したがっているのではないか、と考えてみる必要がある。子どもの苦労を見るのが苦しいので、それを避けようとしていることも多いのではなかろうか。

最近、中堅のビジネスマンの人々が、私の本など「心」に関するものをよく読みはじめたとのことである。以前は仕事に忙しくて、そんな読書などしておれなかったのだろうけれど、それにしてもなぜ心の問題などをと疑問に思った。説明をしてくれた人によれば、これまでは一流大学を出て一流企業に勤めることが「将来の幸福」を約束されることだと考えていたので、自分の子どもたちにもその道を歩ませようとしてきたが、自分の今置かれている状態を考えると、そんな単純なことは言えないことがわかってきた。とすると、自分の子どもたちのほんとうの幸福を考えるには、どのような方法があるのか、その手がかりを何とかして得たいと、本を読むのだ、とのことであった。

わが国のビジネスマンたちが「一流病」の害について気づきはじめられたのは、いいことである。一流大学を出て一流企業に勤めることが「将来の幸福」につながるなどというのではない。それどころか、そのために不幸になったたくさんの人に、私はお会いしてきた。「一流」という重荷が本人の個性や意欲を殺してしまうからである。別に「一流」が悪いのではない。皆の考える「一流」ということが基準になってしまって、その人が個人として考え、望むことがつぶされてしまうところに問題がある、と言うべきである。

子どものほんとうの幸福を願うのには、どうすればいいだろう。もし、そうしたいのならば、「子どもの幸福」という名によって、親の安心や幸福を支えてもらおうとしていないかを、まず考えるべきである。

どう考えても「子どもの幸福」以外に自分の幸福を考えられない人は、それでいいが、「子どもの幸福」のためと言っても結局は自分のためにしているのだから、あまり威張ったり、押しつけたりしない方がいいだろう。

「子どもの幸福」の一番大切なことは、子ども自身がそれを獲得するものだ、ということである。とは言っても、それを「見守る」ことは、何やかやと子どものためにおせっかい焼きをするよりも、はるかに心のエネルギーのいるものである。

（河合隼雄　『河合隼雄の幸福論』による）

問一　――部a「日本の学生とは違うなと思う」とあるが、筆者がこのように考える理由として最も適切なものを①～④の中から選び、マークしなさい。【解答番号10】

① アメリカの大学生は、家族と会えることを楽しみにするが、日本の学生は、家族と会うことは自立につながらないと考えるから。
② アメリカの大学生は、休暇に家族と旅行をすることを楽しみにしているが、日本の学生は、友人と旅行をすることを楽しみにしているから。
③ アメリカの大学生は、休暇に家族と旅行をすることを楽しみにするが、日本の学生は、親と旅行することに否定的な考えを持つから。
④ アメリカの大学生は、家族と会えることを楽しみにするが、日本の学生は、家族と同居しており会うことを楽しみにすることはないから。

問二　――部b「このような例」が指している内容として、最も適切なものを①～④の中から選び、マークしなさい。【解答番号11】

① アメリカ人に養子としてもらわれたアジアの国の子が東洋人的な甘えを見せても、アメリカ人は感情を外に出せない子だと判断し、しつけを厳しくすること。
② アメリカ人に養子としてもらわれたアジアの国の子が東洋人的な甘えを見せても、アメリカ人はしつけに従わない子だと判断し、養護施設に返してしまうこと。
③ アメリカ人は日本人に比べ容易に養子を考えるので、経済的に育てられないという理由でアジアの国の子を養子でもらっても養護施設に返してしまうこと。
④ アメリカ人は日本人に比べ容易に養子を考えるので、養子に対して血のつながりを基にした一体感を感じることができず養護施設に返してしまうこと。

（次ページへ続く）

問三　――部c「学校に行かない中学生の子どもを持った父親が、『今の子どもはぜいたくだ』と嘆く」とあるが、その理由として最も適切なものを①～④の中から選び、マークしなさい。【解答番号12】

① 父親が子どもだったときは働きながら勉強するという苦労をしたので自身の子どもには適切な教育環境を整えたが、子どもは学校にも行かず怠けているから。

② 父親が子どもだったときは学歴のために計り知れない苦労をしたので自身の子どもには学歴にこだわらず接しているが、子どもは学校にも行かず怠けているから。

③ 父親が子どもだったときは小学校までしか通うことができなかったので自身の子どもにはよい私立校に行かせたが、子どもは学校に行っても怠けているから。

④ 父親が子どもだったときは経済的な理由で学校に通うことが困難だったので自身の子どもには適切な教育環境を整えたが、子どもは現在の教育環境に満足しないから。

問四　――部d「『一流病』の害」とあるが、その説明として最も適切なものを①～④の中から選び、マークしなさい。【解答番号13】

① 一流大学を出て一流企業に就職することが必ず幸福につながるわけではないのにもかかわらず、それが世間の基準になり個人で考え、望むことがつぶされてしまっている。

② 一流大学を出て一流企業に就職することが必ず幸福な人生につながるので、それが世間の基準となり個人で幸福を考えたり、望んだりする機会がなくなっている。

③ 一流大学を出て一流企業に就職することが必ず幸福な人生につながるというわけではないが、一流企業に勤めることが世間の基準として成立してしまっている。

④ 一流大学を出て一流企業に就職することが必ず幸福な人生につながるので、それ以外の選択肢を考えたり、望んだりすることを放棄してしまっている。

問五　本文の内容を説明したものとして、適切なものには①を、適切でないものには②をマークしなさい。

ア　アメリカ人は、日本人の親は衣服や車などぜいたくなことにお金を使いすぎて、子どもにお金を使っていないと考えている。【解答番号14】

イ　親が子どもの幸福を願う際は、親が勝手に子どもにとって幸福だと考えることを作り出していないか、ということを考える必要がある。【解答番号15】

ウ　筆者は、子どもを大事に育てる方法として日本流とアメリカ流のバランスをよく考えていかなければならない時代だと考えている。【解答番号16】

エ　最近のビジネスマンは筆者の本を読むことで、将来の幸福とは一流大学を出て一流企業に勤めることであることを再確認した。【解答番号17】

オ　アメリカの親子は、日本の親子のように血のつながりを基にした何とも言えぬ一体感を持っているので、養子をもらう人が多くいる。【解答番号18】

五

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「私」は幼い頃に父親が病死し、岡山で一緒に暮らしていた母親とも離れて、兵庫県芦屋（あしや）の伯母（おば）の家に預けられることになった。そこで、中学校の入学式に臨もうとしているところである。伯母の娘の「美奈子」は小学六年生になるところで、「ミーナ」と呼ばれている。伯母の夫は大きな会社の社長で、その母親がドイツ人の「ローザおばあさん」である。「米田さん」と「小林さん」は伯母の家の家政婦である。

中学は想像していたよりものどかな風景の中にあり、都会的な雰囲気はなかった。校舎の真後ろに山が迫（せま）り、そこより上には住宅の気配はなく、ただ木々が生い茂っているばかりだった。これならば、田んぼの真ん中にある岡山の中学とそう変わらない感じだった。

私は一年二組になった。クラスの女の子たちを見回したところ、私だけが目立って田舎くさいというわけではなかった。母の一番の心配はそこにあったのだが、米田さんの言うとおり、恐れる必要はなさそうだった。更にぱっとしないのは男子の方で、一目で格好いいと思えるような子は、残念ながら見当たらなかった。担任は大学を出たばかりの、背の低い社会科教師だった。

「家、どこなん？」

式が始まる前、隣に座った子が話し掛けてきた。私は住所を言った。
「ふうん。そんなら、カバがいる家の近く?」
「うん。そこ」
「へえ」
彼女はまるで、私がカバそのものであるかのような興味津々の目でこちらを見た。
「ほんでも、苗字が違う」
その子は私の名札を指差した。[a]面倒なことになりそうだ、と私は思った。その時、教頭先生が厳かに式の始まりを告げ、体育館は静かになった。私はほっとしながらも、その子の耳元に顔を寄せ、
「カバじゃないの。コビトカバ。偶蹄目カバ科コビトカバ属」
とささやくのを忘れなかった。
入学式の間、[b]伯母さんは完璧に振る舞った。ショールを元どおり肩に引き上げ、その合わせ目に左手を添え、髪留めのサファイアを品よく光らせていた。それらの上に舞い落ちた桜の花びらが、予期せぬアクセントになった。口元には微笑をたたえ、目元にはわずかの翳りもなく、素っ気ないパイプ椅子に座っているにもかかわらず、優雅な姿勢を保っていた。明るい色の口紅はよく似合っていたし、柔らかい生地のワンピースはほっそりした身体の線をより魅力的に見せていた。
申し訳なさそうに煙草に火を点けたり、うなだれるようにしてウィスキーのグラスを口に運ぶ時のあの雰囲気は、どこかに上手に隠してあった。
お互いの学校が始まると、ミーナと私の生活にもリズムが出てきた。学校から帰ると、おやつを食べ、勉強をする。夕方にはマーシャ・クラッカワ先生のラジオ講座『基礎英語』を聴き、米田さんか小林さんのお手伝いをする。人参の皮をむいたり、ポチ子の餌を運んだり、簡単な仕事ばかりだ。ミーナが必ずするお手伝いは、マッチでお風呂のガスの火を点けることだった。私がやって来るずっと以前から、それは彼女の仕事と決まっているようだった。晩ご飯を食べた後はミーナと一緒にお風呂に入り、それぞれのベッドで眠りに落ちる。
毎日が規則的になるにつれ、私のホームシックは治まろうとしていた。[c]朝はたいてい上機嫌だった。特に天気のよい春らしい朝、カーテンを通して差し込んでくる朝日で目を覚ます瞬間が好きだった。昨夜脱いだままの室内履き、飴色の床、壁紙の地模様、ランプ型の電灯、その前に座るだけで賢くなれそうな、どっしりとした机、そうしたものたちがうす暗がりの中で少しずつ浮かび上がってくるのを、ベッドから眺めるのが好きだった。
カーテンを開けると、庭の緑が朝露に濡れて光り、遠く空との境目に、海が横たわっているのが見える。ポチ子は築山の寝床でまだ夢を見ているのだろう。ただ小鳥たちだけが元気にさえずり、池のほとりで水を飲んでいる。階下からは朝ご飯の支度をする米田さんの気配が伝わってくる。毎朝バゲットパンを配達してくれる、ベーカリーBのライトバンが勝手口の前に止まる音も聞こえる。その音を聞いただけで、焼きたてのパンのいい匂いが漂ってくる気がする。朝日は世の中を平等に祝福しているように見える。
ところが、夜は危ない。日が沈み、玄関ポーチ、台所、踊り場、庭園灯と家のあちらこちらの明かりが順番にともりだし、暗闇が足元から迫ってくる時分になると、[d]祝福は呪いに変わる。ミーナだってローザおばあさんだって皆、本来あるべき自分の居場所に守られているのに、私だけが[A]見当違いなところに置き去りにされている気分になる。闇は世の中からたった一人、私だけを選び出して心の中へなだれ込んでくる。
特に[e]夜のポチ子がいけない。夜行性のポチ子は、暗くなると昼間より行動範囲が広がり、花壇の周りを回ったり、藤棚の下にあるベンチに頭を載せて夜景を眺めたり、芝生に寝転がったりする。小林さんの用意した餌だけでは物足りないのか、茂みや植え込みに頭を突っ込んでは始終口をもごもごさせる。時々、池に入り、ずんぐりとした身体からは想像もできない静けさで水面を泳ぐ。
そんなポチ子を部屋の窓から眺めていると、なぜか寂しくてたまらなくなる。昼間にはただ滑稽で心和む仕草にしか見えなかったものが、暗くなった途端、もっと別の意味を帯びてくる。私たちに打ち明けられない悲しみを、ポチ子はああしてヨチヨチと庭を歩きながら、吐息と一緒に吐き出しているに違いない。あるいは池の水に溶かし出そうとしているのかもしれない。小林さんが帰った後で。誰にも気づかれないよう、暗闇に紛れて、ひっそりと。
家中で私一人が、[f]夜のポチ子をこんなにも心配している。彼女の本心を分かっているのは、私しかいないように思えてくる。暗がりの中に浮かび上がる、深緑色のポチ子のお尻に、私と彼女の寂しさが一緒になって、びっしりと詰まっている。
ホームシックを慰めてくれる一番の薬は、母からの手紙だった。米田さんは郵便受けに母の手紙を見つけると、何を差し置いてもすぐに大きな声で私を呼んだ。
「朋子さん。お母様からお便りですう」

（次ページへ続く）

その声を聞くと皆が一斉に、私の元に集まってきて手紙の到着を喜び合った。
「この前のんより、分厚いんと違う？」
ミーナの観察はいつもどおり鋭い。
「トモコのママ、字が上手。もうこの漢字、私は読める。お月様が二つ並んで、朋子」
ローザおばあさんは老眼鏡を掛けて封筒の宛名をのぞき込む。
「ちゃんと返事を書いてますか？お母様を安心させないけませんよ。親に心配を掛けるのが一番の親不孝です」
どんな時も米田さんはお説教を忘れない。
「皆がそばにいると、ゆっくり手紙が読めないわ。朋子を一人にしたげましょ」
と、伯母さんは言う。
彼らがどうして人に来た手紙にこれほどの興味を示すのか分かったのは、米田さんが、
「龍一さんからお便りです」
と言って居間に入ってきた時だった。スイスに留学しているミーナの兄龍一さんからの手紙は、g無条件で彼らを幸福にした。山の上の家に、外の世界から吹き込んでくる一陣の風だった。ローザおばあさんはいつになく早いリズムで杖を突いて登場し、伯母さんはすぐさま煙草をもみ消し、庭仕事をしているはずの小林さんまでもが駆けつけてきた。宛名はいつもローザおばあさんになっていたので、封を切る特権は彼女に与えられた。
「ねえ、早く開けてよ」
待ちきれずにミーナは急かしたが、おばあさんは手紙に付随するすべてを味わうように、文字をなぞり、消印を見つめ、糊付けされた合わせ目にキスをした。それからようやくおぼつかない手つきで、ハサミも使わずに封を破った。それほど大事な手紙の封筒がびりびりに破れてしまって大丈夫なのかと私は心配したが、皆は既に中身のことで頭が一杯らしく、気にしてはいないようだった。
中にはローザおばあさんだけでなく、伯母さん、ミーナ、米田さん、小林さん、それぞれに宛てた手紙が入っている。皆おばあさんの手から、自分の手紙を選び出し、すぐにその場で立ったまま読みはじめる。ある人は含み笑いをし、ある人は感じ入ったようにうなずく。誰かが、自分のにはこんなことが書いてある、と言って声に出して手紙を読み出すと、まるで競い合うかのように、私のにはこんなことが、私のには……と次々朗読がはじまる。各々ソファーのお気に入りの場所に座り、お互いの手紙に耳を澄ませる。
彼らは手紙が届く喜びを大事にする人たちだった。それを分かち合える人たちだった。しかし私は気づいていた。龍一さんからのエアメールに、伯父さん宛ての手紙は一枚も入っていなかった、ということに。

（小川洋子　『ミーナの行進』より）

問一　〜〜〜〜部A「見当違い」の本文中での意味として、最も適切なものを①〜④の中から選び、マークしなさい。【解答番号19】
①　判断を間違えている　②　見間違える　③　正義感のない　④　無防備である

問二　〜〜〜〜部B「滑稽で」の本文中での意味として、最も適切なものを①〜④の中から選び、マークしなさい。【解答番号20】
①　面白くて　②　明るくて　③　可哀相で　④　悲しくて

問三　――部a「面倒なことになりそうだ、と私は思った」とあるが、その理由として最も適切なものを①〜④の中から選び、マークしなさい。【解答番号21】
①　隣に座った子が、次から次へと聞き出してくるので、この子と仲良くしなければならないと思ったから。
②　隣に座った子が、次から次へと聞き出してくるので、家で飼っているカバを披露しなければならなくなりそうだったから。
③　隣に座った子が、次から次へと聞き出してくるので、私の家の事情について詳しい説明を求めそうだったから。
④　隣に座った子が、次から次へと聞き出してくるので、このまま二人で話し続けると教頭先生に怒られてしまうと思ったから。

問四　――部b「伯母さんは完璧に振る舞った」とあるが、「私」の心情として最も適切なものを①～④の中から選び、マークしなさい。【解答番号22】

① 母親とは離れて暮らす「私」のために、良き母親のように伯母が優雅な姿勢を貫いてくれていて誇らしく感じている。
② 煙草やウィスキーを我慢することで、一人の大人として立派な姿勢で入学式に参列している姿に感動している。
③ 伯母さんは余計な口出しをすることなく、入学式に参加している「私」を見守ってくれていて安心している。
④ 他のどの保護者よりも式典にふさわしく、優雅な雰囲気を持ち合わせている伯母によって優越感を抱いている。

問五　――部c「朝はたいてい上機嫌だった」とあるが、その理由として最も適切なものを①～④の中から選び、マークしなさい。【解答番号23】

① 学校へ通い、家ではお手伝いをするなどミーナの家族たちとの生活にも慣れ、規則的な生活を送ることができているから。
② 母親と離れて暮らしていることによってホームシックになっていたが、差し込んでくる朝日のおかげで目覚めが良くなったから。
③ 夜は暗くて見えていなかった住み始めたばかりの部屋の様子が、部屋に差し込んでくる朝日によってよく見えるから。
④ 朝は五感を刺激するような素敵な情景が広がっており、朝の訪れが世の中を平等に祝福しているように感じられるら。

問六　――部d「祝福は呪いに変わる」とあるが、「私」の心情として最も適切なものを①～④の中から選び、マークしなさい。【解答番号24】

① 自分とは違って、慣れ親しんだ居場所があるミーナやローザおばあさんに対して、怒りが込み上げている。
② 朝は「私」にとって素敵な時間だが、夜は親元を離れて暮らす寂しさでいっぱいになっている。
③ 夜が深まれば深まるほど家の中や家の庭が暗くなり、自分自身に闇が迫ってくることによって怯えている。
④ 夜になって闇が広がることによって、自分の足元が暗くて何も見えなくなることを恐れている。

問七　――部e「夜のポチ子がいけない」とあるが、その理由として最も適切なものを①～④の中から選び、マークしなさい。【解答番号25】

① 打ち明けられない寂しさや悲しさを、ひっそりと吐き出しているような気がして辛くなるから。
② 一緒に過ごしたいのに、家の庭を自由気ままに歩き回るなど、「私」の相手をしてくれない様子だから。
③ 「私」は孤独に対して恐怖を感じており、ポチ子が死んでしまうのではないかと恐れているから。
④ 夜のポチ子は昼間よりも行動範囲が広がり、庭を抜け出してどこかへ逃げてしまうことを恐れているから。

問八　――部f「夜のポチ子をこんなにも心配している」とあるが、その理由として最も適切なものを①～④の中から選び、マークしなさい。【解答番号26】

① ポチ子は「私」と同じように悲しんでいて、置き去りにされている気分なのではないかと感じているから。
② 誰もポチ子の様子を気にしている様子がないのに、私だけがポチ子のことを眺め続けているから。
③ 昼間に見せる仕草は、活発に動き回ることができる夜が待ち遠しいためだということを理解しているから。
④ ポチ子は「私」を探し求めており、悲しみを分かち合おうとしているポチ子の気持ちが手に取るようにわかるから。

問九　――部g「無条件で彼らを幸福にした」とあるが、その理由として最も適切なものを①～④の中から選び、マークしなさい。【解答番号27】

① ローザおばあさんが手紙を喜んでいる姿を目にすることで、家族たちも嬉しい気持ちになるから。
② 都会的な雰囲気もなく、のどかな風景が広がる山の上の家での生活に嫌気が差していたから。
③ いつ送られてきた手紙でも、手紙が届く喜びを大事にし、その喜びを分かち合える人たちだから。
④ 龍一さんから彼らに送られる手紙は、それぞれが自分のことをほめてくれるような内容ばかりだから。

問十　本文中の内容と合致しないものを①～④の中から一つ選び、マークしなさい。【解答番号28】

① 「私」は、田舎から出てきたことによって、クラスに馴染めるのだろうかという不安を抱えながら中学校の入学式に臨んだ。
② 「私」とミーナとは一緒にお風呂に入るほど仲良しであり、いつもミーナが相談に乗ってくれるおかげでホームシックは治まった。
③ コビトカバのポチ子は、朝も夜も家の庭を歩き回っているが、「私」にとって夜だけはポチ子が悲しんでいる様子に見えていた。
④ 龍一さんからの手紙はローザおばあさん一家宛ての手紙だったが、伯父さん宛ての手紙だけは入っていなかった。

（次ページへ続く）

六 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ある人、弓射ることを習ふに、諸矢をたばさみて的に向かふ。師のいはく、「初心の人、二つの矢を持つことなかれ。後の矢を頼みて、初めの先になほざりの心あり。毎度ただ得失なく、この一矢に定むべしと思へ」と言ふ。わづかに二つの矢、師の前にて一つを疎かにせむと思はむや。懈怠の心、みづから知らずといへども、師これを知る。この戒め、万事にわたるべし。道を学する人、夕には朝あらむことを思ひ、朝には夕あらむことを思ひて、重ねてねんごろに修せむことを期す。いはんや、一刹那のうちにおいて懈怠の心あることを知らむや。何ぞ、ただ今の一念において、直ちにすることの甚だ難き。

（『徒然草』より）

※諸矢…対になった二本の矢。
※思はむや…思うだろうか、思わない。
※期す…期待する。
※たばさみて…手にはさんで持って。
※ねんごろ…念を入れて。
※一刹那…一瞬の間。
※得失なく…あたりはずれを考えず。
※道…道徳。道理。
※知らむや…知るだろうか、いや知らない。

問一 本文中にある次の①～④のうち、現代仮名遣いで書いた場合と異なる書き表し方のものを①～④の中から選び、マークしなさい。【解答番号29】

① たばさみて　② 持つことなかれ　③ わづかに　④ わたるべし

問二 ――部aとあるが、意味として最も適切なものを①～④の中から選び、マークしなさい。【解答番号30】

① 一生懸命に取り組む気持ちが生まれる。　② 慎重に扱おうとする気持ちが生まれる。
③ 人任せにしてしまう気持ちが生まれる。　④ いい加減にしておく気持ちが生まれる。

問三 ――部bとあるが、意味として最も適切なものを①～④の中から選び、マークしなさい。【解答番号31】

① 怠け心というものは、自分から知ろうとしなくても、師匠は知っておいてくれる。
② 怠け心というものは、自分では気付かなくても、師匠はよくわかる。
③ 欲張りな心というものは、自分では気付かなくても、師匠はよくわかっている。
④ 欲張りな心というものは、自分から知ろうとしなくても、師匠は知っておいてくれる。

問四 ――部cから得られる教訓として最も適切なものを①～④の中から選び、マークしなさい。【解答番号32】

① 常に心の中にある怠け心を、日頃から意識するべきだ。
② 常に心の中にある怠け心を、いますぐどうにかしようとするべきではない。
③ 常に心の中にある欲張りな心を、いますぐどうにかすることはできない。
④ 常に心の中にある欲張りな心を、いつも心に刻んで行動するべきだ。

問五 本文の内容と合致しないものを①～④の中から一つ選び、マークしなさい。【解答番号33】

① 弓の師匠は、初心者が弓を射る際に二本の矢を持つべきではないと言った。
② 弓の師匠は、最後の一本の矢こそ、気持ちを込めて集中するべきだと言った。
③ 弓の師匠の教えは、全ての事柄に通じる考えだ。
④ 道を学ぶ人は、一瞬の怠け心を知らない。

以上で問題は終了です